

コロナ禍での音楽分野の「やりくり」授業 ～「楽譜を読む力(知覚)」が感受に与える影響～

横地美奈

鳥取大学附属中学校 音楽科分野

E-mail: yokoji-m@tottori-u.ac.jp

Mina YOKOJI(Tottori University Junior High School): Classes in the music field under the COVID-19 related crisis. — Effect of “ability to read music scores (logical understanding)” to sensitivity.

要旨 — 例年は年間指導計画に従い、教科書に準じて学習を行っていくが、今年はコロナ対策と同時進行で「できること」が絞られ、限られた条件の中で授業を行うこととなった。歌唱、器楽（アルトリコーダー）の授業は止め、ソーシャルディスタンスを保ちながら、なるべく声や息を発しない方法で何ができるか考えた。しかし、音楽の授業で声や息を発しない方法というのはかなり難しく、悩み抜いた末「楽譜を読む」ことの基礎に立ち返り、小学校の基礎から復習し、最終的には簡単な聴音をして「記譜」できることを目標設定とし、取り組んでみた。また、「楽譜を読める」ようになることで、器楽や創作はもちろんのこと、合唱や鑑賞の学習で楽譜の読み取りから「より深い学び」を得られるのではないかと推測し、学習前と学習後のアンケートをもとに、検証してみることにした。

キーワード — コロナ対策、問題解決、試行錯誤、読譜

Abstract — Due to the spread of COVID-19, we had to create classes adapted to preventing infection of the virus. It was a difficult task especially in music classes that need usually singing or playing wind instruments such as alto recorders. Keeping social distancing was also a problem to music classes. To cope with this situation, instead of singing or playing music instruments, I have tried to raise student's ability to write and reading music scores. I tried to verify the hypothesis that skills of reading music scores effectively lead to deeper understanding and empathy to music based on questionnaires made before and after the learning.

Key words — COVID-19 infection controlling measures, problem solving, trial and error, score reading

Key words — Corona measures, problem solving, trial and error, reading

1. はじめに

「附属中の生徒は音楽が好きな生徒が多い。」というのが、本校出身である私のイメージである。実際、私の在学中は、合唱コンクールにおける盛り上がりぶりと、選曲の素晴らしさが深く思い出として刻まれている。今年附属中学校に思いがけず着任することになり、母校への思いが高まるとともに、「音楽教育を担っていく」責任感で身が引き締まる思いでいる。音楽科教員として、地域の文化の発展を担っていく生徒の育成は重要課題である。また、「音楽の楽しみ」を知ってこそ、人生をより豊かに生きていけることを伝えたいと思った。ま

ずは、単純に「音楽って楽しい。」と思う生徒を増やすことを目標とした。しかしながら、今年はコロナ対策をしながらの授業となり、声や息をなるべく発しない授業を考えなければいけなくなった。「歌唱や器楽が好き。」という生徒もいて、その中で「音楽を楽しめると思う授業」をどうしていくか、非常に苦戦した。まずは実態を把握するため、「音楽が好きか」「どの分野が好きか」「どんな授業が印象に残ったか」というアンケートを実施することにした。そして、アンケートを分析し、生徒が何を求めているか、何が必要かを見極め、それを学習し、事後アンケートで「音楽が好きか」「4月と変化があ

ったか」「学習した内容で何が印象に残っているか」などを問い、分析して来年度につなげていくこととした。また、授業で3年生に聞いてみたところ、「楽譜が読めない」生徒が思った以上にいることに気付いた。そこで、「楽譜が読めるようになることで、より音楽が楽しくなる」という仮説を立て、実践してみることにした。

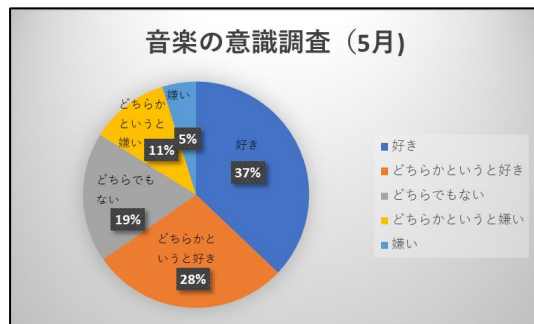


図1 3年生対象 130/136名 5月実施

図1のアンケート調査より、「好き(37%)」、「どちらかという好き(28%)」、「どちらでもない(19%)」、「どちらかという嫌い(11%)」、「嫌い(5%)」という結果が出た。「好き」「どちらかという好き」は、全体の約65%であった。また、「どちらかという嫌い」「嫌い」と答えた生徒は、全体の約16%を占めた。

次に、「歌唱」「器楽(アルトリコーダー、箏)」、「鑑賞」「創作」の4分野についてどの分野が好きか、アンケートを実施した。(図2)

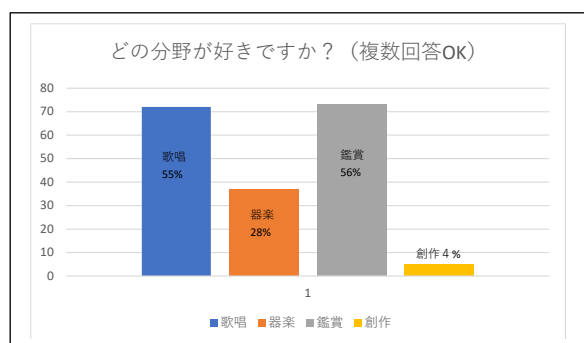


図2 3年生対象 130/136名 5月実施複数回答可

その結果、「歌唱55%」「器楽28%」「鑑賞56%」「創作4%」という結果になった。附属中の生徒は合唱が好きだという私の印象は鑑賞を下回り、予想外の結果となった。

2. 研究の方法

「楽譜を読もう」の取り組み

「音楽の楽しさを知る」ためには、「発見」が必要だと思う。なにげに耳に入ってくる音楽、何となく歌ってきた歌、などが実は深い意味や背景があり、作曲者や作詞者の思いがこもっているものだった、と改めて発見することは単純に面白いことだと思う。

楽譜には様々なメッセージが込められている。歴史的建造物も、歴史を知らないで眺めると歴史を知って眺めるのでは感動の深さも違う。特に3年生には、義務教育最後の音楽教育で「音楽の楽しみ」を知ってもらいたかったので、まずは、楽譜を読み、「楽譜が読めるようになることで、より音楽が楽しくなる」という仮説を立ててみた。そして、楽譜を深く読み取っていく授業を展開し、今後人生の中で出会う音楽の背景を感じながらより深く味わっていけるスキルを身に付けさせたいと考えた。特にコロナ対策で歌ったり演奏したりする授業ができないのもあり、小学校の復習も含めてじっくり「楽譜を読もう」の学習に取り組んでみた。1年生には「リズムを読もう」の取り組みから始めてみることにした。(2年生は鑑賞「アイダ」の学習から実施)

平成29年告示の中学校学習指導要領に記載された音楽科の目標は、「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成すること」である。この場合の「資質・能力」とは、「生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力」を意味している(文部科学省 2017)。また、この資質・能力の育成に向けて、「生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図ることにすること。その際、音楽的な見方・考え方を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさや美しさなどを見いだしたりするなど、思考、判断し、表現する一連の過程を大切にした学習の充実を図ること」が求められている。

中学校学習指導要領の〔共通事項〕の中では、

音楽の学習の全ての分野で楽譜が必ず出てくる。しかし、現実には小学校で習う楽譜の読み方も、学校によって差があり、読める生徒も読めない生徒もいる。学習指導要領にある、「音楽を形づくっている要素」の理解は、「楽譜が読めること」つまり、根本的に音符の意味を理解していることが大前提であると思う。楽譜を読めるようになることで、曲の背景や作曲者のメッセージを受け取り、より学習に深みが増し、おもしろさを感じることができると考える。

⑤(聴音)

R2 3年生 音楽の授業（1～6時間目）		
1 時間 目	<p>1.リズム譜を読もう</p> <p>①出所確認、忘れ物調べ</p> <p>②全体の流れ、本日の流れ確認</p> <p>③全音符 → 16分音符、休符、付点の長さ、確認</p> <p>④4分の4拍子でリズム譜を読む。</p> <p>⑤リズムを書く</p>	観察、発表
	<p>2.リズム譜を書く</p> <p>①出所確認、忘れ物調べ</p> <p>②全体の流れ、本日の流れ確認</p> <p>③節時の復習（リズム譜を読む）</p> <p>④リズムを聴き、書かせる。生徒が問題を出す。</p> <p>⑤ワークシート提出</p>	ワークシート
3 時間 目	<p>3.楽譜を読もう</p> <p>①出所確認、忘れ物調べ</p> <p>②全体の流れ、本日の流れ確認</p> <p>③楽譜の読み方を確認する。</p> <p>④簡単な楽譜を書く。</p> <p>⑤ワークシート提出</p>	ワークシート
	<p>4.楽譜を書く</p> <p>①出所確認、忘れ物調べ</p> <p>②全体の流れ、本日の流れ確認</p> <p>③短時の復習（楽譜の書き方）を確認する。</p> <p>④簡単な楽譜を書く。</p> <p>⑤拍手をいろいろ変えて書く。</p>	ワークシート
4 時間 目		

図3「楽譜を読もう」の授業計画（上は掲示用）

④4/4拍子でのリズム譜を読む

図4 本目の「学び時計」を毎時間掲示(これは1時間目)

「楽譜を読む」

3 年 番 名 ()

1 音符と休符についてあてはまる言葉や数字を入れましょう。

音 符	長さの割合	休 符
全 音 符	4 $\frac{W}{4}$ (タタタタ / ノー・ノッ)	全 休 符
2 分 音 符	2 $\frac{W}{2}$ (タ・タ / ノー・ワン)	2 分 休 符
4 分 音 符	1 $\frac{W}{4}$ (タ・ / ノ・ / ノ・)	4 分 休 符
8 分 音 符	1 $\frac{W}{8}$ (タ・ / ノ・ / ノ・ / ノ・)	8 分 休 符
16 分 音 符	1 $\frac{W}{16}$ (タ・ / ノ・ / ノ・ / ノ・ / ノ・ / ノ・)	16 分 休 符

2 8 分音符や 16 分音符が連続で出てきたら、つなぎましょう。＊拍をまたがないようにする。

① = ② =

= ③ =

3 付点が付いたら、ものの長さの ($\frac{1}{2}$) 倍になります。つまり $\frac{1}{4}$ の付点 $\frac{1}{4}$ は $\frac{1}{2}$ の長さになります。

音 符	長さの割合	休 符
付点 2 分 音 符	6 $\frac{W}{6}$ (タ・タ・タ・ / ノー・ノッ)	3 拍 + 2 拍の 5 拍
付点 4 分 音 符	3 $\frac{W}{3}$ (タ・タ・ / ノ・ / ノ・)	2 拍 + 2 拍の 4 拍
付点 8 分 音 符	2 $\frac{W}{2}$ (タ・タ・ / ノ・ / ノ・)	1 拍 + 2 拍の 3 拍

図5 小学校低学年の授業から復習

4 リズムを書いてみましょう。

番 名前 ()

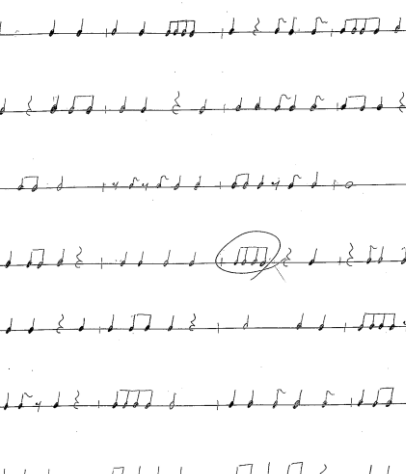


図6 聞いたリズムを書いてみよう



写真1 音譜の長さを書き方を確認後、耳で聞いたリズムを書いている



写真2 自分の創作したリズムを手拍子で表し、それを聴いて記譜する周りの生徒達



写真3 班で教え合いながら書いた楽譜を確認してみる

結果と考察

小学校低学年の楽譜の読み方と同じく、声と手拍子で音の長さを把握することから始めた。(図3～図6) その結果、3年生のテストにリスニングテスト(4分の4拍子2小節分のリズムを聞き取り、書く)を加え、正答率は90%を越えた。したがって、ほとんどの生徒が音符の書き方、長さ、楽

譜の書き方を理解したことがわかった。その後、歌唱、鑑賞の授業に入った。歌唱では、全クラス4部合唱の曲に挑戦したが、楽譜を読めるようになったことで明らかに音取りがしやすくなった。また、強弱記号や調を読み取ることにより、「なぜここにこの記号がついているのか」「なぜこの調が使われているのか」考え、作曲者の意図を踏まえた上で自分たちで曲想を考えて表現するよう声をかけてきた。鑑賞でも楽譜から作曲者の意図を読み取るよう意識できた(図7)。

感想1

⑥役に立つと書いた人は、どういう時に役に立ったか書いてください。

大人数で合唱するとき、強弱や音の長さを自分で覚えておくのに役立った。

⑥役に立つと書いた人は、どういう時に役に立ったか書いてください。

読もうとすると、強弱記号や、リズムの長さなどがわからなくて、よく通じなかった。リズムが読めるようになったので、強弱もわかるようになった。

役に立つと書いた人は、どういう時に役に立ったか書いてください。

文化祭の合唱で、楽譜が読めなくて、どこでどの音を入れるかわからなかった。楽譜が読めるようになったので、楽譜が読めるようになったので、楽譜が読めるようになった。

⑥役に立つと書いた人は、どういう時に役に立ったか書いてください。

リズムが読めるようになったので、楽譜が読めるようになった。

合唱はうたって、すごく楽しかった。ブルタハは、いろんな情景を感じることができて楽しかった。今後、かんじをすることで、作曲者が曲にこめた思いや、なぜこのリズムなのかを速にしたいという意図を、くみとるようにがんばりたいです。

12月には、5月と同じ項目でアンケートを再度実施した(図7)。

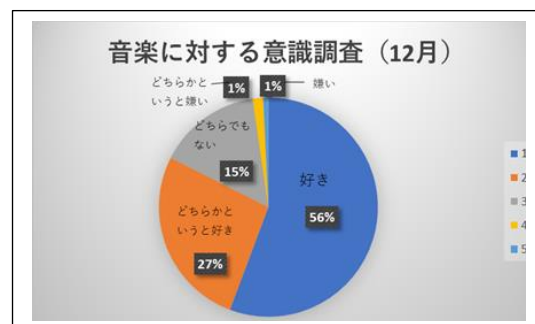


図7 131/136名 12月実施

このアンケート調査より、5月と比較してみると、「好き」(37%→56%)、「どちらかという好き」(28%→27%)、「どちらでもない」(19%→15%)、「どちらかという嫌い」(11%→1%)、「嫌い」(5%→1%)という結果になった。「好き」「どちらか

いうと好き」と答えた生徒は、5月に行ったアンケート調査より約18%増加し、全体の約83%を占めた。また、「どちらかというと嫌い」「嫌い」と答えた生徒は、全体の約16%から約2%と激減した。続いて、分研について同じく5月と同じ質問で、アンケートを実施した(図8)。

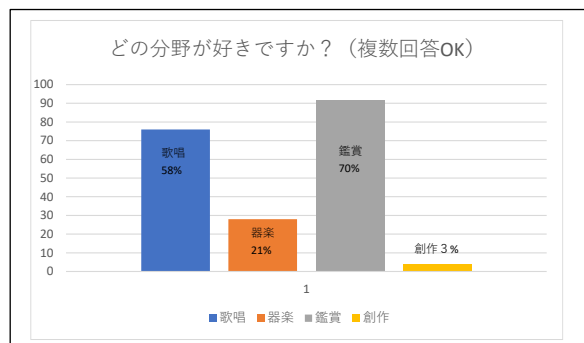


図8 131/136名 12月実施

結果、「歌唱」(55%→58%)、「器楽」(28%→21%)、「鑑賞」(56%→70%)、「創作」(4%→3%)という結果になった。器楽の6%減は、コロナ対策でアルトリコーダーの学習を止めて箏の授業のみとなり、学習時間事態が少なくなった影響もあると思う。また、鑑賞の授業は56%から14%も上昇したが、このアンケートを実施した時は鑑賞の授業が続き、「ブルタバ(モルダウ)」や「モーツァルト作曲のレクイエム『涙の日』」の学習で、映画「アマデウス」を鑑賞した直後であったため、時期的に印象強く残った可能性もある。

次に、「楽譜を読もう」の学習について聞いてみた。

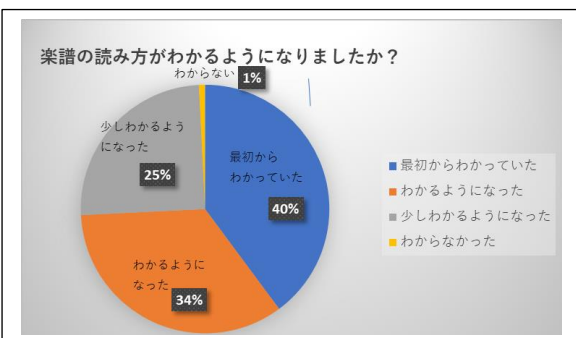


図9 131/136名 12月実施

図9より、もともと楽譜を読めていたのは、全体の約40%の52名であった。そのことから、年度当初は半分以上の生徒があまり楽譜を読めていなかったことがわかった。学習の後、「わかるようになった」「少しわかるようになった」と学習の成果を挙げていたのは77名の約59%となり、もともとわかっていた生徒と合わせて99%が多少は楽譜を読めるようになった。逆に「わからなかった」と回答したのは1名となり、楽譜の読み方について小学校低学年から遡って学習した成果が出てきたように思う。

った」と学習の成果を挙げていたのは77名の約59%となり、もともとわかっていた生徒と合わせて99%が多少は楽譜を読めるようになった。逆に「わからなかった」と回答したのは1名となり、楽譜の読み方について小学校低学年から遡って学習した成果が出てきたように思う。

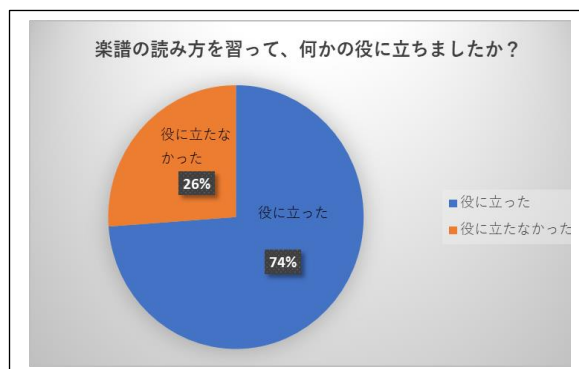


図10 130/136名回答 12月実施

楽譜を読めることが役に立ったか聞いてみたところ、74%が「楽譜を読めることで役に立った」と回答した。しかし、「役に立たなかった」と回答した生徒も26%いた。学習したことを普段の授業で生かし切れなかったという課題も残された(図10、感想2より)。

感想2

⑥役に立ったと言った人は、どういう時に役にたったか書いてください。

タケノコを飼ったので、楽譜について深い知識を得ることができた。

⑥役に立ったと言った人は、どういう時に役にたったか書いてください。

レッスンコースに出てくる歌の歌詞をより詳しく、強弱の気もつけられるようになった。教科書にのっている部分の楽譜を読む。

⑥役に立ったと言った人は、どういう時に役にたったか書いてください。

好きな曲の楽譜を見て、音がわかるようになった。

⑥役に立ったと言った人は、どういう時に役にたったか書いてください。

好きなアーティストの人や好きな曲の楽譜を見て、曲のイメージがわいた。

⑥役に立ったと言った人は、どういう時に役にたったか書いてください。

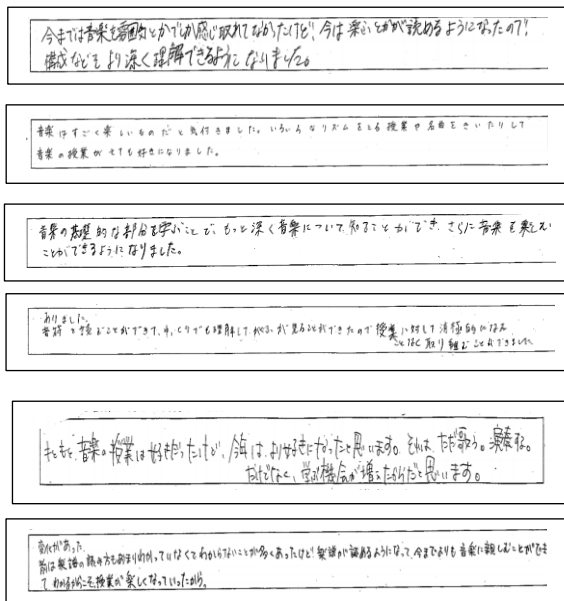
楽譜を見るだけで、曲の雰囲気やリズムがわかるようになりました。

「なぜ音楽が好きになった生徒が増えたのか」調べてみた(感想2)。

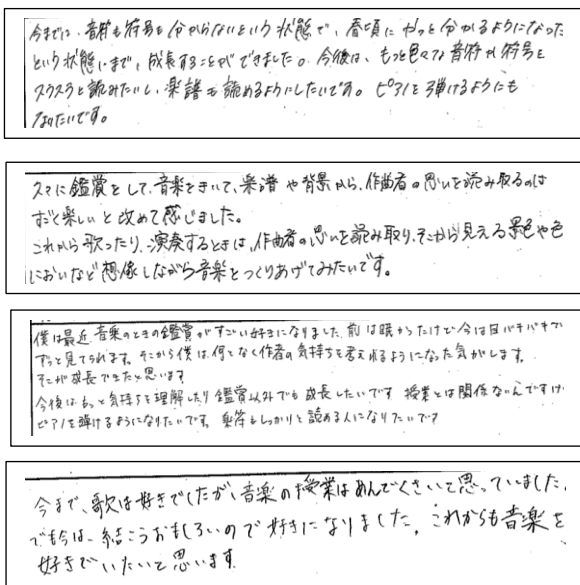
感想3『4月から授業に対して気持ちの変化はありましたか？』(アンケートより 12月実施)

④4月から授業に対して気持ちの変化はありましたか？変化があったのなら、それはなぜですか？

音楽の歴史や楽譜の読み方について、もっと深く音楽について学ぶことができて、音楽に興味を持ってやるようになった。



感想4《音楽の授業の感想より》



感想3, 4からもわかるように、全体的には「音楽が好きになった」生徒が増えた理由として、「楽譜が読めるようになり、おもしろくなった」ことを何名か挙げている。「楽譜を読めるようになることで、作曲者からのメッセージを受け取り、深く背景を探るようになった。」と書いていた生徒が何名かいた。授業では、合唱では楽譜から音程を読み取ることはもちろん、リズムや拍子、またその変化によって歌い方や表現方法をどう変え、抑揚を付けていくか考えさせた。『ブルタバ (モルダウ)』の鑑賞では、音符の長さや強弱記号の他に拍子やリズム、使われている音符の特徴や調を読み取り (知

覚)、テーマに合うようどう工夫されているかを考え、それぞれの曲想の違いや変化を感じられる (感受) ようになったと推測する。

楽譜を読み取る授業を重ねていくうちに、「なぜこういう音符が使われているのだろう?」「なぜこの拍子が使われているのだろう?」「なぜここから調が変化したのだろう?」などという疑問から考えを深め、その結果「作曲者や背景について興味を持った」ことも挙げられている。しかし、楽譜が読めるからすぐ楽しくなるわけではない。それをどう音楽への理解に深めていくか、教える側の「仕掛け」が必要である。

生徒のアンケートより、楽譜が読めることがより音楽が「楽しく」なったことにつながっていることはわかった。しかし、それ以外にも楽しかったこととして挙げられているのは、「鳥取大学教授の西岡千秋先生に、全クラスの歌唱指導をしていただき、歌や歌詞のイメージがよりふくらんだ」→つまり、専門の先生に直接指導していただくことで「発見があり」、より音楽が好きになったことにつながっていた。また、鑑賞の授業でモーツァルトのレクイエム「涙の日」の学習で、『アマデウス』を抜粋して鑑賞し、作曲する様子を見たり、時代背景を見たりすることも珍しく、楽しかったようだ。

つまり、「楽譜が読めるようになること」が単純に「音楽を好きになること」ではなく、あくまでも「好きになる、興味を持つためのツール」であることがわかった。我々に求められるのは、「いかにたくさんの素材を与え」、「その素材を自分で加工し、楽しみを追求する力」(＝やりくりの力)を育てることではなかろうかと考えている。

文献

文部科学省 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説より

* 書籍を参考にしてアンケート調査実施

石村光資郎+石村友二郎著 石村貞夫 監(2014) 東京図書株式会社乙論・修論のためのアンケート調査と統計処理